

ICTを利用の場合

【注意】両システムとも携帯電話の電波を使いますので、通信の契約が必要になります。

遠隔監視&捕獲 トルモット・システム

難しい配線もない、超カンタンな設置が自慢の遠隔システムです。現場の状況をカメラで確認して、ゲートを落としたい時に、遠隔でゲートを落とします。パソコンからでも、スマホからでも操作可能です！



- *スケジュール撮影で事前にシカの行動パターンを把握できます。
- *赤外線自動照射で夜間でもシカを確認できます（写真参照）
- *もちろん任意のタイミングでも撮影も可能。

自動監視&捕獲 Web AIゲート かぞえもん AIR

効率的捕獲支援システム「Web AIゲート かぞえもん Air」は、休耕地や林内に設置された罠をセンサーが自動で監視します。さらにWebサービスによって、どこからでも稼働状況の確認と設定の変更が出来る、スマートな捕獲活動をトータルで支援するICT捕獲支援システムです。AIによって最適なタイミングで捕獲を実行します。

◆ 最適頭数を算出

人工知能が、捕獲前に蓄積したデータから、捕獲できる最適な見込み頭数を計算します。

◆ 監視は不要、メールでお知らせ

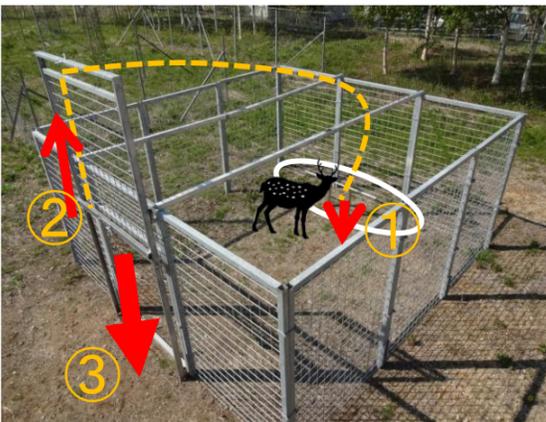
自動捕獲ですのでシカやイノシシの出没状況を常時監視する必要はありません。捕獲情報はメールで通知する機能もあります。
⇒見回りの無駄を削減、捕獲情報の共有

◆ 使いやすい操作パネル

タッチパネル式の分かりやすい操作画面の採用で、直感的に操作や設定が出来ます。

ICTを利用しない場合

動物の動きに依存した原始的な仕掛けです。軽く触れれば作動しますので1頭の動物が作動させてしまう可能性が高いと思われましたが、意外に複数捕獲の実績が多く、高価なICTに頼らないシンプルな罠としてご好評いただいております。



トリガー作動部の丸パイプ①に野生動物が触れて落下すると、トリガー②が跳ね、連動して落とし扉③が閉まります。

※ 落とし扉にはストッパーが掛かり、イノシシの強い力でも持ちあげられることはありません。

※ 上部からの逃走防止のため、天井部にはワイヤーメッシュ等で補強することをお勧めします。
(傾斜地の設置ではパネル間に高さのズレが生じるため、標準の装備になっていません)

MAGオリジナル

パネル式囲い罠 ICT対応

大好評のパネル式囲い罠が、より使いやすくバージョンアップ！

NEW! パネル角度自在でシュート部も！

⇒生体捕獲に最適

大好評の簡単設置（標準タイプ30m²で2人30分）

⇒頻繁な設置場所移動に最適



未来のアグリ株式会社

札幌本社 〒065-0019 札幌市東区北19条東4丁目2-10
 福島本社 〒065-0019 福島市岡部字内川原33-4
 盛岡営業所 〒020-0021 盛岡市中央通3丁目1-2 盛岡第一生命ビル3F
 大阪営業所 〒541-0041 大阪市中央区北浜2丁目3-6 北浜山本ビル2F
 ホームページ www.mirai-np-agri.jp

TEL 011-711-6136 / FAX 011-741-7253
 TEL 024-531-2711 / FAX 024-531-2713
 TEL 019-606-3387 / FAX 019-606-3078
 TEL 06-6222-8766 / FAX 06-6201-0668

未来のアグリ株式会社

(旧北原電牧株式会社)
H28.9.21に社名変更しました

【標準タイプ（パネル12枚）】

前モデル同様、12枚で構成するのが標準仕様です。

写真は後方のパネルを鈍角にして繋ぎましたが、もちろん従来通り正方形に設置することも可能です。設置の簡単さも従来通り、2枚のパネルを接続してしまえば自立しますので、その後の作業がとても楽です。

パネルの枚数を増やせば、大きな囲い罠を作ることができますが、形状や大きさによって補強資材の仕様が変わってくる場合がございますので、ご相談ください。

作業中などの安全のためのストッパー

落とし扉下り止め



ゲート重量に左右されず、軽いタッチで作動します
ICT捕獲にも対応可能

トリガー部



パネルだけで自立しますが、上部連結でより安定します

上部連結



パネル連結金具

2枚のパネルを連結してコーナーを組めば自立しますので、作業がラクラク



落とし扉上り止め

落とし扉を持ち上げて逃げようとする動物対策も万全

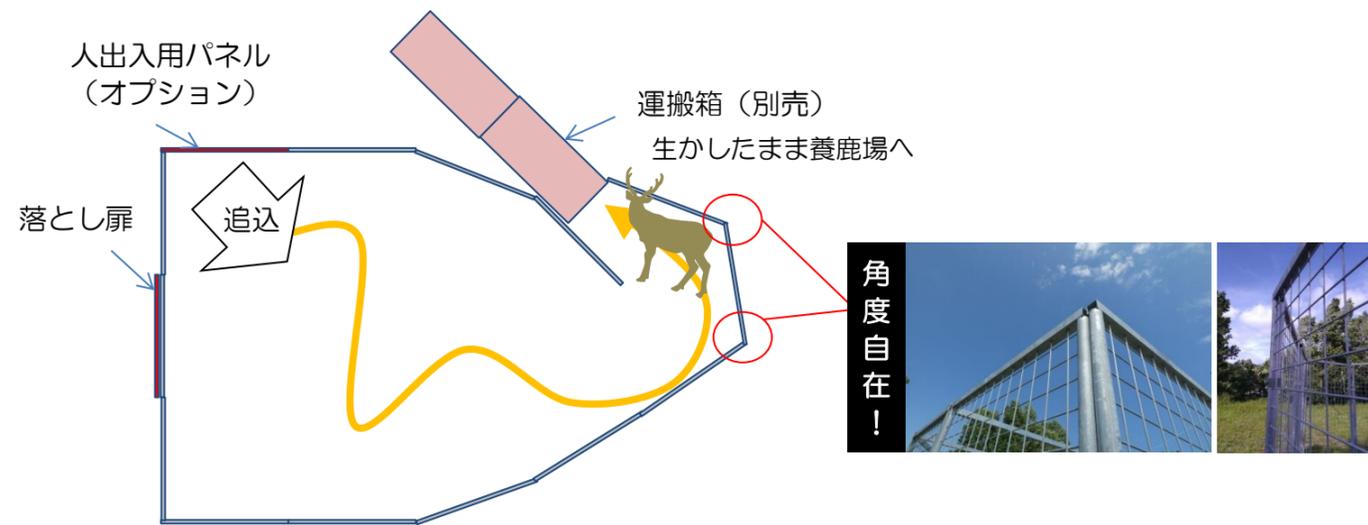


トリガー作動

原始的に動物の動きに依存した仕掛けですが、意外にも複数捕獲は珍しくありません

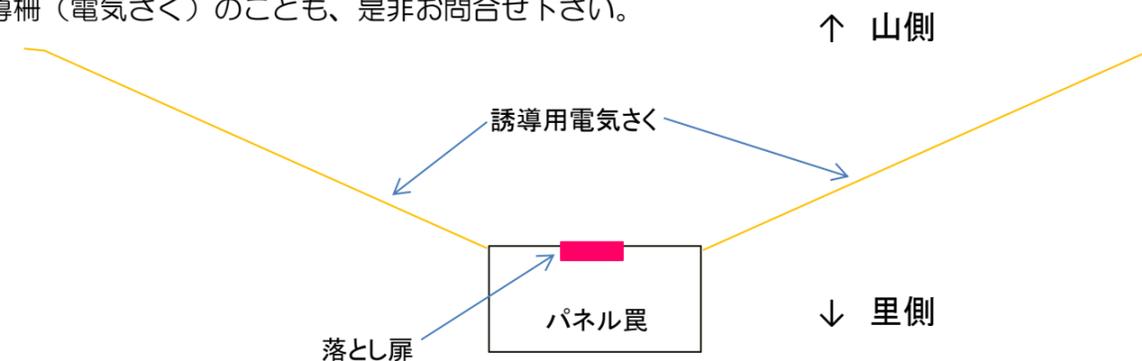
【設置例】

旧モデルは直角と直線でしかデザインできなかったのですが、新型は角度自在です。イラストのように一方を狭く漏斗状にデザインして追込みをやすくすることも出来ます。そのまま運搬箱まで追い込んで、養鹿場や処理場に運搬する場合などに最適です。



◆効率的な捕獲のための誘導

積雪期の誘因は比較的容易で、一度に10頭以上の捕獲が出来ることも珍しくありませんが、雪の無い時期には自然界にもエサが豊富ですので、エサでの誘因はなかなか困難です。そこで一役買うのが電気さく。容易に設置できる電気さくを使って、囲い罠の入り口に動物が自然に近づくようにすることが可能です。未来のアグリは日本で最初に電気さくを作った会社です。誘導柵（電気さく）のことも、是非お問合せ下さい。



また、既存で金網などの防除柵があって、その周囲をシカが移動している痕跡があれば、これを使わない手はないでしょう。柵がなくても、明確なシカの通り道があるような場合でも同様です。フェンス沿いに歩いていたら、あるいはいつもの通り道を歩いていたら罠の中に入っていた、というようなことも可能でしょう。実際、自宅敷地内がシカの通り道になっていた人が、同じ場所で連日シカを捕獲、その場所だけで一冬に数十頭のシカを捕獲した例もあります。

